

おわりに

おわりに

大崎市鹿島台地域は、元々沼（品井沼）であった場所を先人が苦勞して干拓し、巧な水管理を駆使して一大米処である「大崎耕土」として発展してきた地域であるが、古くから度々水害に悩まされ水害と『戦ってきた』地域でもある。このように、地域を潤し豊かな大崎耕土を発展させてきた“吉田川”は、一度氾濫すれば長期にわたり広大な帯水域を形成し、早期の生活再建を困難にしてきた河川である。一方で、世界農業遺産にも認定されたこの地域の農業は、大規模経営やブランド農作物の開発等、今なお進歩し続けている。また、仙台圏、石巻圏への通勤圏にあり交通・利便性に優れながら、大崎市の天然記念物「シナイモツゴ」等も確認されている豊かな自然環境を有しており、多くの魅力を有する地域でもある。

この豊かな地域を持続させ更に発展させていくため、「流域治水」の理念を踏まえ、行政をはじめ地域社会全体で、防災・減災を実践していくことが大事である。

「(仮称)新・水害に強いまちづくり」を通して地域が目指すものは、地域を持続的に発展させ、誇れる郷土・誇りを持てる社会（シビックプライド）を形成することであると考えます。

そのためには、地域住民自らが「(仮称)新・水害に強いまちづくり」について理解を深め合い、水害に負けない強靱な地域社会の実現に向け行動し、創り上げていくことが重要と考える。

既に、地域では「流域治水」の取り組みへの議論が始まっている。今後、地域の一人一人が、誇りの持てる「ふるさと」のため、「水害に強いまちづくり」に参画し、議論と協力がなされることが期待される。